校友会報

日本大学第二工学部
校友会事務局
福島県郡山市外記定
電話(郡山)1563番
発行人　高野　操

会長に関根氏(電三)再選

第四回校友会総会

熱心な参加者を集めて

昭和三十六年度(第四回)校友会総会は去る五月二十一日正午より数十人の参加者を得て校友会館で開かれた。郡山地区に就職している校友はもとより、東京に勤務している電気一回生や化学一回生などが出席するなどの熱心さが全会場にみなぎり、終始なごやかなうちに会議は進められた。開会の辞に続いて議事に入り、議長に服佐氏(建一回)を満場一致で選出した。議事に入って、前会長の関根氏があいさつ、創立以来満三年を経てようやくその基盤がかたまってきた旨の話があり、その後、高野事務局長が大要次のような会務報告を行なった。

昭和三十五年度は基盤の地がための年であって、アカシヤ育英会の設立などの新事業に積極的に乗り出した。また校友会報の第二号を刊行し、校内バス停留所の建設、校友会館の二階を学生ホールとして開放するなど、種々の施策がとられた。去秋恒例の学部祭に対する援助はもちろん、本部助教授の渡欧奨に対しても校友会としては全面的の後援を行なった。最後に今後の校友会の躍進を確信して会務報告は終った。

次に昭和三十五年度の決算報告を後藤庶理部長が行ない、別掲のように承認を得た。昭和三十六年度の予算審議の後に会則改正の案が出され、第十六条の会計年度が三月一日に初まって翌年の二月末日に終るように改められた。その後新年度の役員改選に入り、小委員会を別室で開いて選出し、その小委員会の報告と当関根氏を会長に再選し、他の役員も別掲のように選出又は推薦した。

その他として山の家の活用法が、これは最警備に山の家を作ろうという話が学生委員会や学部側から出ているものであり、情勢の進行をよく把握して、その時には校友会としても全面的に協力するということで結論を得た。

議事の終了後に懇談会に入り、学生委員会の代表も加って先輩達とよく談笑するほほえましい光景が各所に見られた。四時過ぎにまた来年の再会を約して散会した。

昭和三十六年度役員

会長　関根昭一(電二回)
副会長　相沢千明(土二回)
同　曽野宗和(機二回)
理事　服佐遂也(建一回)
同　木村圭二(建三回)
同　大山雄八郎(土三回)
同(総務部長)　島羽重孚(電一回)
同(庶理部長)　後藤侗(化二回)
同(事務局長)　高野操(化三回)
同　渡辺幸夫(土二回)
幹事　釣巻昌男(電三回)
同　半沢忠(化六回)
同　松田忠倫(土二回)
評議員　塚原健二(機三回)
同　柳沼福夫(機五回)
同　佐藤光正(機九回)
監事　花井肇(化三回)
同　橋本義久(電四回)
同　三沢好夫(建四回)
事務局　吉田伸二

諸兄の鞭撻を希求する

会長　関根昭一

校友諸兄には各職場において立派なご活躍をされておりますことお喜び申し上げます。おかげ様にて当校友会も一六〇名の校友と二八〇〇名の学生会員を持ち、ますます発展をして参りつつあります。母校の現状は写真のごとく間もなくすばらしい校舎や実験室が完成し、昔の海軍の面影が消えて学園らしくなって参りました。ここ近年本校の卒業生徒も工業ブームに乗ってどしどし優秀な会社に送り込まれ、エンヂニアとして工業界に活躍されています。かかる現状は第二工学部の意気大いに上がっており母校の発展に校友として心強く思っている次第です。さて去る五月二十一日に三十六年度総会が校友会館において開催され、正会員並びに学生会員のご出席をいただき、終始建設的な活発な討議が行なわれました。内容としては経過報告を始めとして予算の審議が行なわれた。議事局並びに先輩諸兄の絶大なるご協力を切にお願い致し任期を勤めたいと思っております。最後にこのたび校友諸兄のご協力と事務局の努力によりまして会員名簿と会報が発行されましたが不十分な点が多々あると思いますのでよろしくご指導の一報下されば幸いと思います。

アカシヤ奨学生に三名が既に採用さる

校友会では会報刊号で既報の様に、去年十月五日、会則第三条及び第四条に基づき「アカシヤ育英会」を設立したが、今日まで既に三名の学生が奨学生として採用されている。

昨年度は応募者四十数人の中から学生課とアカシヤ育英会とで慎重審議の結果、奨学生第一号として坂田君が採用された。

今年度は予算も二名にふやすことが出来、去る六月十三日今年度のアカシヤ育英会役員総会を校友会館で開き、役員選出の後に奨学生の募集方針について討議があり、その翌日から募集が開始された。

願書を請求した学生は五十余名であった。

◇昭和三十五年度奨学生
坂田憲次(当時土木三年)
日本大学東北工業高校出身
福島県東白川郡棚倉町
◇昭和三十六年度奨学生
若杉英雄(電気三年)
長崎県北松出身
長崎市桜馬場町
金田毅(土木一年)
北海道沼川西高校出身
北海道網走郡津別町

「会員名簿」出来る

今度の事業の一つである「会員名簿」の大冊の第一号が、九月末に発行された。これは会員千六百人の名簿であり、四年に一度の大冊の第一号である。もちろん不備の点もあるが、不備の所はどしどしご連絡下さい。

昭和35年度収支決算書

自至　昭和35年4月1日　昭和36年2月28日

1．支入の部

説明	種目	本年度予算額	本年度決算額	比較増減
経常会費		400,000	357,000	△ 43,000
入会金及び会館建設資金		1,100,000	1,292,000	◎192,000
雑収入		0	11,630	◎ 11,630
繰越金		4,959	4,959	0
合計		1,503,959	1,665,589	◎160,630

2．支出の部

説明	種目	本年度更正予算額	本年度決算額	比較増減
人件費		267,000	265,740	△ 1,260
旅費		75,000	74,750	△ 250
渉外交際費		124,500	124,300	△ 200
通信費		79,400	79,252	△ 148
印刷費		72,300	72,215	△ 85
消耗品費		28,600	28,232	△ 277
備品費		45,500	45,270	△ 230
光熱費		3,300	3,270	△ 30
総会費		11,800	11,600	△ 200
役員会費		61,000	60,914	△ 86
振助費		100,000	100,000	0
名簿作成費		47,000	46,500	△ 500
工事請負費		117,000	117,000	0
銀行借入金支払		615,834	615,834	0
繰費		17,355	16,960	△ 395
合計		1,664,589	1,665,928	△ 3,661
差引残高		1,665,589−1,631,928=△3,661		

(比較増減の◎は増、△は減を表わす)

昭和36年度予算書

自至　昭和36年3月1日　昭和37年2月28日

1、収入の部

款項	説明	種目	予算額
経常会費			470,000
入会金	入会金および会館建設資金		1,600,000
繰越金	繰越金		3,661
合計			2,073,661

2、支出の部

事務局費			280,000
	当所費(当座預金)		18,000
	手数料		35,000
	通信費	郵便切手	15,000
		日本電信電話	80,000
		国際電信電話	35,000
	旅費		30,000
	印刷費		50,000
	消耗品費		100,000
	光熱費		5,000
	備品費		10,000
	雑費		26,661
総会費			21,000
	会場費		3,000
	印刷費		15,000
	通信費		3,000
役員会費			15,000
	旅費		30,000
	会場費		25,000
	印刷費		10,000
事業費			30,000
	学園祭援助費		30,000
	学園祭援助費		200,000
	学園祭援助費		48,000
	学園祭援助費		60,000
	学園祭援助費		630,000
	予備費		100,000
予備費			190,000
合計			2,073,661

下宿の斡旋を

新入生から初める

昨年度の活動方針としてもとりあげられていた学生のための下宿先あっ旋は去る三月一日に今までの担当者であった学生課から事務を引き継いでその仕事が全面的に校友会に渡った。

引き継いで早々に新入学生のあっ旋という大仕事にぶつかり、事務局員がてんやわんやの事態もあったが、何とかその危機も脱出することが出来た。

三月前半は各下宿主の家を個別訪問して新しい収容人員の大要をうかみ、三月後半にはぼつぼつ学生からの申し込みがあり、四月十日までに六百五十件の下宿をあっ旋した。

数件の例外をのぞいては、入学式までに落ち着き先を得て、第一回の仕事としてはまずまずの成績であった。

その後も新しい下宿主の開拓やその他下宿主と学生側と学校側の三者協議会など、校友会の事務局を中心として開かれ、七月上旬には郡山保健所の専門家を招いて下宿主を対象とした夏期栄養講習会を開き、六十余人の出席者を得て好評であった。

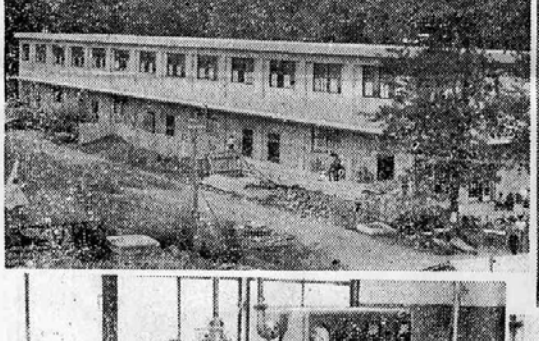
自動車部東日本一周

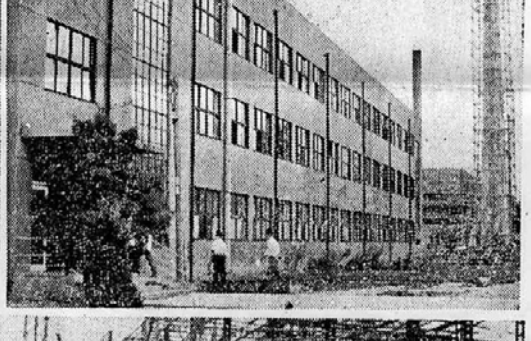
昨夏の東北一周が好評であった第二工学部自動車部では、今夏は東日本一周を試み、七月二十二日十時、市役所で秀瀬市長のメッセージを受けて出発、八月六日朝に全員事故なく帰ってきた。

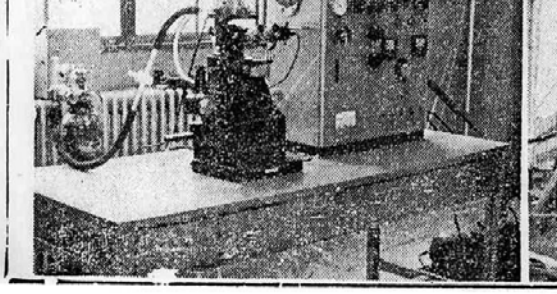
隆盛を極める

学園の全貌

創立以来十数年を経た「第二工学部」もその全容を変える時期が来たかのように思い出の姿は刻々と消されて来た。先ず新校舎が去る三十一年十二月に竣工した。これは鉄筋三階建の六百八十坪余のもので、建定の地にすっくと建った姿は東北本線の車窓からながめられる。続いて実験室と教室がかねた二階建(四百七十七坪余)が昨年九月に完工し、近代的な実験設備も同時に設置された。現在は「学部」の心臓ともいうべき新校舎(一般科の教室や事務系統を一括するもの)が鉄筋鉄骨の三階建一千六百四十五坪としてボイラー室(五十七坪余)と併行して建設されている。これらのものが完成すれば堂々たる風貌を表わすだけではなく、静閑な地の利とともに全国に誇れる学園と生まれ変わるものと期待されている。ここにいくつかの写真をのせて郡山を巡くはなれて住む校友諸兄にその全容を知らせたい。写真の右上は新校舎から工事現場を望んだもの。左上は実験室校舎の全景。右下は現在工事中の現場であり、左下は実験室(機械科)のスナップである。







技術者の大和古寺めぐり

菅野宗和

今年の五月のはじめ、ある用事のため、久しぶりで京都に旅行した。今年は、観光・法然上人の大遠忌にあたったため、京の景は相当なにぎわいをみせたそうだが、私はこの時期をずしたため、比較的静かな青葉若葉の古都を味わうことが出来た。

朝京都に着いて午前中に所要をすませ、夜は宇治の花屋敷で旅の疲れをいやした。翌日は伏見にいる医者をしている親類を訪ね従兄の運転で車で奈良を訪れた。車が斑鳩の里へ着くころは、朝から怪しかった空模様がとうとう崩て、小雨が音もなく降り出しフロントガラスを曇らせた。

☆…法隆寺

かさをさしての古寺めぐりも、決して不愉快なものではない。第一雨のため人がまばらで、一般の観光客の団体にわづらわされない。

また雨が落着いた枯れたわびしい情緒をかもし出し、旅人をしてもの悲しい想いに誘うものだ。先ず私たちは法隆寺を拝観した。何んと言ってもここでは夢の世界にいるような白済観音に圧倒された。世界的に有名な法隆寺については、多くの人が語りその印象をくわしく記しているので、私の下手な感想は不必要であろう。法隆寺の北にある中宮寺を拝観し、大和郡山の古い街道を通って薬師寺へ出た。ここまでくると更に人影は少く、ひっそりと静まりかえった境内は、野鳥の声のみが、時折静寂を破るのみである。

☆…薬師如来

この寺の本尊は、言うまでもなく薬師如来で、金銅仏の三尊像が国宝に指定されている。

これは芸術的に白鳳時代の最高傑作として知られ美と敬虔さをほこる逸品である。

私は以前、古代仏像について技術的興味を持った事があったので特にあの尊い未完のなかにある神秘的な美しさを観察してみた。大きさは原像から観察してみた。大きさは原像で高さ二尺余り黒光りの柔らかい感じの仏像である。これは別らかに鋳型による鋳物である事がわかった。

ここで鋳型というのは、古代鋳物の造型法の一つで惣張法と並んで非常に多く用いられたものである。

惣張法というのは、緻密な水成岩や砂岩に型をきざみ、その中に金属を流し込んで作られるきわめて原始的なもので、上古の銅剣や銅鐸はこの方法で作られたものである。

これにたいして鐵型鋳物は、ねん土や木材で内型を作り、その上にねん土を塗って全体を乾燥させ。そして熔銅を流しこむと先づ鐵がとけ流れ、次にその部分が金属と交替する。あとから内外のねん土を取りのぞくといった工程である。

法隆寺金堂の釈迦三尊像は木型によるものだが、木型によるものは、出来上りが鋭い感じが出るが、鐵型は一般に柔く表現する事が出来る。またもう一つの特長は鐵の上に色々な細工を自由に施すことで、薬師如来台座の様な古代ギリシヤの系統を汲むという稲妻唐草、印度の獅子、古代中国の四方四神などの文様はみなこの方法で作られたものだろう。

☆…唐招提寺

次に私たちは、すぐ近くにある唐招提寺を訪ねた。山門を入ると松林が金堂を取りまき、美しくゆうゆうとした唐招提寺特有の屋根が、そこにあった。

奈良に来ては何と言っても東大寺の大仏は無視出来ぬだろう。正式には毘盧舎那と言われ、青銅作りでは、世界最大のものである。

元来日本人は、常識を越えた大きなものが好きなようだ。大東亜戦争には、島が丸かからないような軍艦を作ったり、最近では、エッヘル塔より高い塔を簡単に作ってしまう。

☆…東大寺大仏

こういった素質は昔からあったらしく、千余年の前に作られた奈良の大仏はその歴史的証拠である。やはり大陸文化の輸入と共に中国から伝わった大陸的思想が、日本人に影響しているのかも知れない。この天平の昔に作られた大仏の鋳造法については、種々の説があるようだが、調べてみると大きいため鐵型ではないようである。大体の想像される製造法を簡単に記してみよう。

先づ最初大仏が乗る台座を石と土とで作り、その上に実物大の大仏の模型を作った。この模型は初め木材で組み立て、これを心として外側に鋳物砂を塗って仕上げたものである。これに表した日数は十五ヶ月とされる。

この鋳物砂で作られた模型はそのまま位置に置かれ中型となり、その外側に雲母等の粉を介して、また鋳物砂を塗りつけて外型をつくるのである。そしてこの外型は後で適当な大きさに分割して取りはづし、次にまた表われた中型の表面を大仏の肉厚だけ削り取る。そこでまた取りはずした外型を元の位置に返して窯なぜで周りを幾重にもしばって、鋳型としたものである。大仏は大きいため、全体を八段に仕切って湯に下から作っていったものらしい。

鋳込みは外型と同じ高さの土手を築き、その上に多くの熔解炉を設け、炉から鋳型まで樋を通して湯を流し込んだ。その時の炉数は容量から言って約二百の炉が動員の周囲に放射状に並んだ事になりこれが一時に注湯される光景は壮観であったことは次の古文書より充分想像出来る。

「辺刻廻時一万余斤鍚湯入炉内、如大河流千乱海、飛焔上空中、似猛火熾千泰山其雨如雪」

こうして鋳込みが終了した大仏は、頭の上まで土がかぶっているので、この土の山を取り除き巣や湯切れの部分の湯かけに五年の年数を費した。次に鍍金しの表面にある湯ばりなどをタガネで削り取り、彫刻し、さらに木炭等の磁石で表面を研磨し、鍍金をして完成したものである。

また大仏の頭部にある蓮は、九百六十六個、一個づつ別に鋳込み、あとから頭部にはめ込んだ。この点鎌倉の大仏はら蓮は、頭部と一体に鋳造されている。

しかしこうして苦心し、十余年の永い歳月を費しての完成は、その後約五百年の後、清盛に一夜のうちに兵火のため破壊されてしまうのである。大仏殿はその後平治の乱に至りまたも兵火にあうが、現在残っている大仏は、江戸時代に復興されたものであって、やはり当時の壮厳さをしのぶにたりる日本最大の国宝としての価値は少しも損じられない。

現代の社会では、技術者優遇の気運にようやく傾いて来たようだが、奈良の大仏の製作に従事した技術者たちは、相当高い賃金を得ていたらしい。即ち一般の労働者が一日十文の賃金に対して、仏工は六十文、鋳鋼作工は五十文支給されたそうだ。そして今でも毎年東大寺二月堂等に読む過去帳の中に六人の主任技術者の名を挙げてその労をねぎらっている。

当時としては、よく技術者の立場を理解していた事は興味ある事だ。

今日いたずらに西欧的なものにあこがれ、日本古来の伝統も持つかくれた技術的にすぐれた美術品、工芸品を無視している様に思われるが、こうしたなかにも、残くほど、近代的感覚を有する作品も少くない。いたずらに古いからと言ってスクラップ視する人たちがまだいるのは実に残念な事である。

私たちは大仏殿を出て最後に二月堂の回廊から奈良盆地をながめた。そして茶屋でわらびもちと言うものを食った。味がはっきりわからないうちに無くなってしまったのが印象に残った。

校友会の後援で 第五回 学内学術講演会 盛大に開催さる

去年あたりはそれの開催がみられなかった学内学術講演会は、今年度は第二工学部主催、第二工学部、校友会後援として、去る七月一日に二つの大講堂に多数の聴衆を集めて盛大に行なわれた。

長らくこういった講演会がなかったけに講演数も三十六という多数を数え、各講演者は日ごろの研究成果を発表する機会を得たように好評であった。

この第五回講演会は学部内だけの学部で研究している人の講演会であったが、将来は第二工学部を卒業して各会社で研究している人を含めての研究発表会に発展することが望まれている。

今後は年に一回は定期的に開催されることだろうから、校友会としても全面的に後援し、学術研究の発表の場を作ることに努力して行くことになろう。

なお、この第五回学内学術講演会は、今年度は第二工学部主催、第二工学部、校友会後援として、去る七月一日に二つの大講堂に多数の聴衆を集めて盛大に行なわれた。

長らくこういった講演会がなかったけに講演数も三十六という多数を数え、各講演者は日ごろの研究成果を発表する機会を得たように好評であった。

この第五回講演会は学部内だけの学部で研究している人の講演会であったが、将来は第二工学部を卒業して各会社で研究している人を含めての研究発表会に発展することが望まれている。

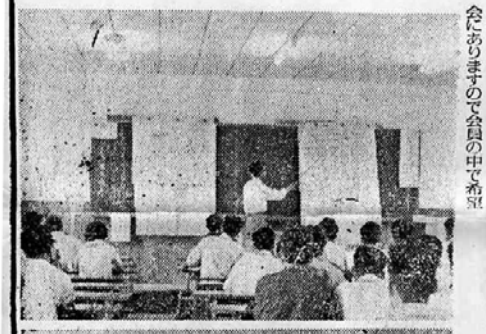
今後は年に一回は定期的に開催されることだろうから、校友会としても全面的に後援し、学術研究の発表の場を作ることに努力して行くことになろう。

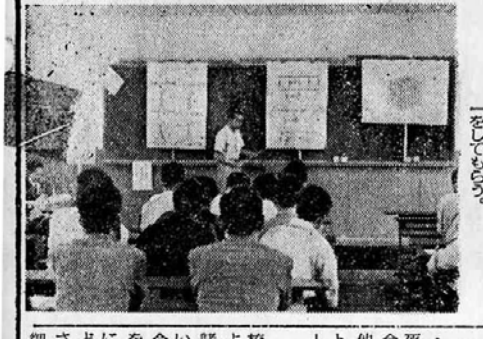
なお、この第五回学内学術講演会は、今年度は第二工学部主催、第二工学部、校友会後援として、去る七月一日に二つの大講堂に多数の聴衆を集めて盛大に行なわれた。

長らくこういった講演会がなかったけに講演数も三十六という多数を数え、各講演者は日ごろの研究成果を発表する機会を得たように好評であった。

この第五回講演会は学部内だけの学部で研究している人の講演会であったが、将来は第二工学部を卒業して各会社で研究している人を含めての研究発表会に発展することが望まれている。

今後は年に一回は定期的に開催されることだろうから、校友会としても全面的に後援し、学術研究の発表の場を作ることに努力して





【写真は講演会のスナップ】

する人は事務局まで申し込まれるようにお願いします。

第12回学部祭 二十日から

恒例の学部祭（工学祭改め）は本年は第十二回を数え、十月二十日の前夜祭にて幕を開ける。

前夜祭は午後六時よりたるみこし、ちょうちん教個の仮装行列がつらなり、本学部学生が組織するブラス・バンドの市内パレードが行なわれる。

芸能祭は二十一日、郡山市民会館で午前十時から午後十時まで昼夜の二部制にて行なわれる。詩吟民謡と踊り、浪曲公演、バンド演奏、合唱、空手演武等もりたくさんのプログラムが用意され技を競う。なお当日は下宿主などを招待し、学生が日ごろ世話になる慰労をしてもらう。

展示会は二十二日、日本大学第二工学部において各学科、各研究会の一年間の総合研究発表と各種実験器具の公開を行なう。その他当日は木村秀政氏（理工学部）三浦朱門氏（芸術学部）（予定）の講演会が第二工学部大講堂で行なわれる。

校友会報原稿募集

(A)秋学ダイジェスト (B)研究解説 (C)外誌摘録・紹介 (D)技術ニュース (E)設計施工報告 (F)随筆紀行文 (G)個人消息（転勤・転居・昇任・結婚・留学・帰朝・学位取得・学会賛受賞・死亡等）(H)クラス会便り・部会便り (I)学内便り (J)その他写真は鮮明な印画、図及びカットは白紙またはトレシングペーパーに願書のこと。

〝事務局便り〟

校友会も四年目になった。前掲のように学部内も脱皮しつつある。諸兄もそれぞれに何回も脱皮していることでしょう。

今年度はようやく「会員名簿」を印刷することが出来た。御協力に対して感謝します。これからもどしどし事務局あてにお便りを下さい。お待ちしています。

（T）

昭和三十七年度
学生募集要項

一、募集学科 土木工学科・建築学科
機械工学科・電気工学科
科・工業化学科

一、入学試験期日 昭和三十七年三月十八日(郡山)
東京出張試験は三月一日

一、入学試験科目
外国語 英語
数学 数Ⅰ（統計及び空間図形を除く）は必須ほかに数Ⅱ・数Ⅲ（順列組合せ・確率・統計を除く）のうち一科目選択
理科 物理・化学・生物のうち一科目選択

日本大学第二工学部

大成建設株式会社郡山営業所
所長 平松伊平
本社 東京都中央区銀座2の4 TEL (561) 9511(大代表)
仙台支店 仙台市東1番丁97の1 TEL (3) 7131(代表)
営業所 郡山市図景町37の3 TEL 2889